❖ 神秘のスーパー・エネルギー「クンダリニー」

◉――クンダリニー――人間の精神を高い次元に押し上げるエネルギー

まず初めに、クンダリニーについて説明しておこう。

それは、霊的なエネルギーで、人間の精神を高い次元へと押し上げる働きを持っている。すべての人がこのエネルギーを持っているのだが、尾てい骨の辺りに眠った状態だ。

しかし、この神秘のエネルギーを全面的に覚醒させることができれば、わたしたちは、夢のような素晴らしい力を得ることができる。

人間を超えた神々の力と無限の智慧を手にすることができるだけでなく、最終的には、絶対に壊れることのない〝永遠の幸福〟に浸ることさえ、夢ではなくなるのだ。

> クンダリニーが目覚めたのちは……目まぐるしい変化と成長をくり返すこの世界から、現実と夢との間ほどもかけ離れた新しい世界に入っていく。……人間は感覚器官の支配から脱して精神的な存在となり、自由に天上界に昇れるようになる。
>
> （ゴーピ・クリシュナ著『クンダリニー』（平河出版社））

◉――多くの異名を持つスーパー・エネルギー

尾てい骨のクンダリニーを霊視すると、蛇（へび）がとぐろを巻いたような形で、螺旋状（らせんじょう）になって存在していることがわかる。

そしてこれが覚醒すると――ちょうど蛇が頭をもたげ、スッと真上に飛び上がるような感じで――エネルギーが背骨に沿って勢いよく上昇していくのである。このときに、強烈な熱感を伴うのが普通だ。

クンダリニーという言葉が、「螺旋」を意味するサンスクリット語の「クンダラ」と、「燃える、焼く」を意味する「クンド」を語源としているのは、そのためである。

クンダリニーは、それがわたしたちに偉大な力をもたらしてくれることから、「サーペント・パワー（蛇の力）」とも呼ばれてきた。

このほかにも、

・人間の創造的な可能力

・隠れたる力
・宇宙的生命力
・宇宙エネルギー
・エネルギーの貯蔵庫
・休眠中の力
・心身相関エネルギーの中心
・蛇火
・火のような力
・世の母

といったそうそうたる名が付されており、このことからも、このエネルギーが〝ただならぬもの〟として位置付けられてきたことが、よくわかるのである。

鍵によりてその戸を開けるとき、そのときヨーギ（※ヨーガ行者）は解放への扉を……クンダリニーによりて開けることになる。

偉大なる女神（クンダリニー）はまだ眠っているが、その閉じられた唇を分け開くとき、ヨーギ

はブラフマ・ランドラ（頭頂）へと……すなわち苦痛も苦悩もないところへと昇ってゆくことになる。

クンダリニーはカンダ（kanda 根）の上で眠っている……彼女はヨーギに自由を与え、ヨーギを無知の束縛から解き放つ。

このクンダリニーを識るものこそ真にヨーガを識る者である。クンダリニーは蛇の如くにとぐろを巻いているとされている。これを〈上方へ〉昇らしめる者こそ、自由を得る。

（『ハタ・ヨーガ・プラディーピカー』〔傷一〇五～一〇〕）

◉――クンダリニー――その驚くべきパワー

では、このクンダリニーは、わたしたちにどのような恩恵をもたらしてくれるのだろうか。それは、先程も述べたとおり〝超人的な能力〟ということになる。

なぜなら、このエネルギーそのものが、わたしたちを人間の状態から脱皮させ、神々の状態へと至らせる〝礎〟となるものだからである。

その恩恵の主なものとしては、以下のものが挙げられる。

(1) 超健康体になれる

クンダリニーが覚醒すると、体力・気力が充実し、エネルギッシュになる。睡眠時間が短くなり、一日三時間程度の睡眠で大丈夫になる。もちろん徹夜も平気だ。

また、疲労してもすぐに回復するし、ストレスからも解放されやすい。そして、病気にもかかりにくくなるのである。

(2) 天才的頭脳を手にできる

頭の回転が速くなり、一度覚えたら忘れない優れた記憶力、強靭な意志力、精神力、集中力、鋭いインスピレーションなどが得られるようになる。

精神的、心霊的能力が発現している場合には、超常性の程度に差こそあれ、神経系統や頭脳構造に……クンダリニーの特殊な活動が必ず見られるのである。

天才の場合がすべてそうであるし、レベルは少し低くなるにしても、異常に高い知能の持主の場合もまたしかりである。

（ゴーピ・クリシュナ著『クンダリニー』（平河出版社））

この力（※クンダリニーの力）を潜在的な状態から活動的な状態に転換し得た人物が、各時代や各文化における偉大な天才となる。（スワミ・ラーマ）

（ジョン・ホワイト著『クンダリニーとは何か』（めるくまーる社）より）

《体験談》記憶力が向上

クンダリニー覚醒後、特に記憶力が良くなりました。頭の中が以前よりすっきりし、暗記しなければならないことや、その他のいろいろなことも、一、二回聞いたり読んだりするだけで覚えられます。

頭の回転も良くなり、本当に変わったと思います。

（東京　Nさん）

《体験談》念願の国家試験に合格

医療系の国家資格を取得するために専門学校に通っていたのですが、持病のつらさと集中力のなさのため、普段から、長時間机に向かい続けることができないでいました。

そのため勉強がはかどらず、試験も不合格。卒業後、アルバイトをしながら、さらに二回試験に

（大阪　Yさん　女性　二十代）

挑戦しましたが、それでも駄目でした。

さすがに「今度落ちたらあきらめよう」と思っていた矢先、ＡＬＥＰＨ（アレフ）に入会することになり、セミナーでクンダリニーを覚醒させることができました。

その後は別人のように健康になり、集中力・記憶力も格段にアップ。

それまで二百点満点で四十点程度しか取れていなかったのが、四回目の試験では百六十点取ることができました。もちろん合格でした。

（3）様々な才能が開花する

これは、クンダリニーがチャクラ[*注1]を開発することで得られるものだが、様々な現世的能力が開花することが挙げられる。

詩的センスが身に付き、異性からもてるようになったり、学問・才能に秀でたりするようになる。

また、地位や名誉を手にすることが可能になるほか、もっと高度になると、この世でかなわない願望はないというほどの状態にさえ、至ることができるのである。

注1：チャクラについては、第二章を参照のこと。

（4）神の力を手にできる

クンダリニーによって得られる恩恵はこれだけではない。人間を超えた神の力――神通力（超越神力）をも獲得させてくれるのだ。

神通力とは、この肉体から自在に別の身体を抜け出させ、いろいろな世界に飛んでいったり、神々と交信したり、他人の心を読み取ったり、あるいは、自分や他人の過去世や、未来世を見たりすることのできる力のことである。

（5）魂の最高の境地――「解脱」へ

しかし、この神通力も、最終的な目標ではない。

覚醒したクンダリニーがどんどん上昇し、上り詰めてしまえば、最終的に、この人間世界で得ることのできるあらゆる快楽を超越した至高の状態――「解脱」に到達することができるのである。

この境地に至った段階で、その人は煩悩から解き放たれ、一切の苦悩は消滅する。壊れることのない自由と幸福と歓喜の大海に浸りきり、実体のないこの世の快楽など、たちまち色あせて見えるようになる。

この「解脱」こそ、仏教の開祖であるお釈迦様（サキャ神賢真理勝者）をはじめとする古今東

西の聖者方が到達し、世界中の修行者たちが目標としている〝魂の最高の境地〟なのだ。

❖ クンダリニーは人類共通の最奥儀

◉――世界中で認められるクンダリニーの存在

世界中のほとんどの大宗教や、精神的な修行の道や、また本格的なオカルトの伝統の中で見られる、いわゆる「神がかり」の現象の中には、このクンダリニーの体験に非常によく似たものが認められる。

……クンダリニーに相当するものは存在しているのであり、さまざまな名称を纏ってはいるが、それらは神の如き状態に達するための鍵として理解されている。

（ジョン・ホワイト著『クンダリニーとは何か』（めるくまーる社））

この神秘のエネルギー「クンダリニー」は、古来、世界各地でその存在が認められ、描写されてきた。

医学的、解剖学的、生理学的には存在していないはずの、この霊的エネルギーが、不思議なことに、古今東西の宗教や文明で共通して語られているのである。

このことは、クンダリニーが夢幻や架空の存在ではなく、れっきとした、実在するエネルギーであることを示しているのだ。

以下、その痕跡をたどってみよう。

◉――本場インド・ヨーガ

まず、神秘の国インド。クンダリニーの語源が古代インドのサンスクリット語に由来していることは、先に述べたとおりだ。インドはクンダリニーの〝本場〟と言ってもいいだろう。

☆ヴェーダ

古代インドのバラモン教の根本聖典として、『ヴェーダ』と呼ばれる文献がある。これは紀元前十数世紀ごろから一千年ほどの期間をかけて成立した。そこには、このようにクンダリニーの記述がある。

「人の中に眠るコブラ（蛇）が目覚めて走り上るとき、人は神に目覚める」

☆バガヴァッド・ギーター

四世紀ごろには完成していたとされるヒンドゥー教の聖典『バガヴァッド・ギーター』。大叙事詩『マハーバーラタ』中の一詩篇で、ヴィシュヌ神の化身クリシュナが王子アルジュナに教え諭す内容となっている。ここにはクンダリニーの記述がそのまま出てくる。

「我は力なり、神なり、クンダリニーなり」

このように、古来、クンダリニーのパワーを知っていたインド人は、クンダリニーを活用して超人へ至る技法＝「クンダリニー・ヨーガ」を開発し、数千年にわたってその秘儀を伝えてきた。現在もその伝統は受け継がれている。

◉――仏教――お釈迦様もクンダリニーを覚醒していた

原始仏教にもクンダリニーを認めることができる。

お釈迦様の頭にコブのような盛り上がりがあるのを、仏像などで見たことがあるのではないだろうか。

これは「肉髻」と呼ばれているが、クンダリニーが上昇して頭頂にまで達したときにできるものである。つまり、お釈迦様はクンダリニーを覚醒していたのである。

実は、仏教の源流はヨーガである。お釈迦様はもともとヨーガの修行を行なっていた。これ

は、弟子の詩句の中に「ヨーガを修行しようと欲して」という言葉があることや、北伝仏教の流れを汲むチベット仏教で、ヨーガを行じていることを見てもわかる。

とすれば、クンダリニーの教えがそこに含まれているのは当然と言えよう。

最古の原始仏典『阿含経』には「縁起の法」という法則がある。のちに紹介するが、このプロセスを実体験するには、クンダリニーの覚醒が欠かせない。つまり、仏教にはクンダリニーが密接に絡んでいるのである。

◉――原始キリスト教にもクンダリニーの教えがあった

原始キリスト教の教えを忠実に伝えるといわれる「コプト教」という宗教が、エジプトにある。

コプト教は、西欧に広まったローマ・カトリック教会から分離し、独自の道を歩んだ。そのため、本来のキリスト教の修行法を保っているという。

コプト教には、クンダリニーを覚醒させて、高次元の生命体に至るための修行法が残されていた。

新約聖書を読むと、イエス・キリストが、予言や遠隔透視、水上歩行などの様々な神通力を駆

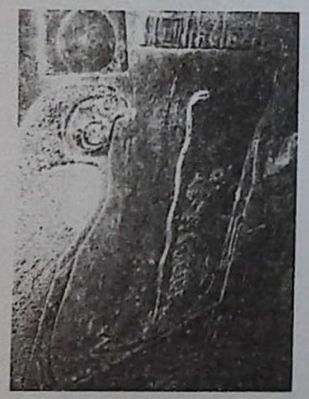
使していることがわかる。これらの能力をすべて発揮するには、クンダリニーの覚醒は欠かせない。

◉――古代エジプト――クンダリニーを示す蓮と蛇の図

エジプトの首都から南へ六百キロのところに、プトレマイオス朝末期の「ハトホル神殿」がある。

ここには、クンダリニーのエネルギーによって解脱へと至る内容を示す象徴が、記されているのだ。ここではその一部の例を示そう。

「三本の蓮の花」(列柱室の柱)
――蓮の花は最高位の霊的センター（サハスラーラ・チャクラ）の象徴。三本という本数は、人体でも最も主要なエネルギーの通り道（ナーディー）の数に合致している



「蛇のレリーフ」(地下室)
――蓮の花から天に向かって立ち昇っている蛇。蛇＝クンダリニーであるから、これはクンダリニーの覚醒を示すと言える

◉――古代ギリシア――オルフェウス教の秘儀とヘルメスの杖

☆オルフェウス教

古代ギリシアで紀元前六世紀ごろ広まった密儀宗教、それがオルフェウス教だ。伝説的詩人オルフェウスを開祖とし、その詩を聖典として秘儀を行ない、禁欲生活をしたという。

この秘教では、「蛇」が秘儀の象徴として描かれている。宇宙卵を抱く蛇は、賢者の象徴とされている。

宇宙卵

☆ヘルメスの杖＝カドゥーケウス

ギリシア神話に登場する神、ヘルメス。この神は秘教的にエジプトのトート神（知識・技術・芸術の支配者）と同一視され、「ヘルメス・トリスメギストス（三重に偉大なるヘルメス）」と呼ばれた。

ここで注目したいのは、ヘルメスの持つ杖「カドゥーケウス」だ。この杖は平和と医術の象徴だが、問題はその形である。二匹の蛇が巻き付き、頂上には二つの翼を備えているのだ。

カドゥーケウス

杖とそれに巻き付く二匹の蛇という形は、まさにクンダリニーと関係する三つのエネルギー経路そのものの形をしている。

◉――すべての宗教の最奥儀

これらのことは、この神秘のエネルギーが確実に存在しており、しかも、いつの時代のどこのだれにでも――もちろん、皆さんにも――存在する普遍的なエネルギーであるということを示す、何よりの証拠と言えよう。

このクンダリニーこそ、あらゆる宗教の〝最高の奥儀〟であり、人間の精神性や霊性を開発する〝秘儀中の秘儀〟にほかならない。

❖ 霊的進化の幕開け——クンダリニーの覚醒

それでは、いよいよクンダリニーの覚醒のプロセスを見ていくことにしよう。

◉——土台となる三管の浄化

クンダリニーを覚醒させるに当たって重要となるのが、「イダー管」「ピンガラー管」「スシュムナー管」と呼ばれる三つの管（気道）である（※三管の図は口絵参照）。

- イダー管
……左側。「水」「寒」「甘露（かんろ）」を象徴し、迷妄（めいもう）（無智（むち））のエネルギーを通す
- ピンガラー管
……右側。「火」「陽」を象徴し、邪悪心（じゃあくしん）（嫌悪（けんお））のエネルギーを通す
- スシュムナー管
……中央。愛著（あいじゃく）（貪（むさぼ）り）のエネルギーを通す

わたしたちの体には、七万二千本の「ナーディー」と呼ばれる管が存在しており、その中を霊的エネルギーが流れている。わたしたちの霊体は、このエネルギーによって動いているのである。

それだけでなく、ナーディーのけがれの度合いやエネルギーの強弱といった諸条件によって、わたしたちの意識状態や肉体の状態は、様々に変化することになる。

そして、この七万二千本のナーディーの中で最も重要な働きを担っているのが、この三つの管なのだ。

クンダリニーを覚醒させるに当たって、まずはこの三管を浄化しなければならない。

それは、イダー管とピンガラー管を浄化することから始まる。そして、迷妄のエネルギーと邪悪心のエネルギーの質を最高に高め、その上でスシュムナー管へと移動させ、愛著のエネルギーへと変えてしまう。

そして、この時点で生まれた愛著というストレスのエネルギーが、クンダリニーとなって、スシュムナー管を上昇していくのである。

◉――覚醒に向けての〝関門〟――火と水の洗礼

イダー管とピンガラー管を浄化するプロセスとして、「火と水の洗礼」というものがある。

「洗礼」というと、キリスト教で信者となるときの儀式を思い浮かべる人も多いだろう。それから転じて、人間的成長のために必要な経験や試練にもたとえられる。

この「火と水の洗礼」は、まさに後者で、クンダリニーの覚醒に向けての〝関門〟とも言うべきものなのだ。

まず、人体の右側に位置するピンガラー管が「火と水の洗礼」を受けて通り、次に、左側にあるイダー管が「火と水の洗礼」を受けて通るのである（これは男性の場合で、女性は通る順序が左右逆になる。ただし、例外もある）。

ピンガラー管が開く過程では、太陽の磁場の影響で、わたしたちの霊体は火にさいなまれる。そのため、肉体にもそれが伝わり、熱病・炎症・視力の低下などが現われ、まさに火に焼かれるがごとく苦しまねばならない。

反対に、イダー管が開く過程では、月の磁場の影響で、水に浸されるがごとく、冷え・しびれ・無力感・寒さに耐えなければならなくなる。

この苦しさは、修行を中止するか、あるいは何としてでも乗り越えて霊的進化を遂げるかの、

二つに一つの選択を迫られるほどだ。非情にも、この過酷な「火と水の洗礼」に耐え抜くことができた者だけが、次の修行段階に進むことができるのである。

ちなみに、この「火と水の洗礼」は、短期間で素早く通過する人もいれば、長くかかる人もいる。また、火（水）の洗礼ののちに水（火）の洗礼が来るという、オーソドックスなプロセスをたどる場合もあれば、火の洗礼と水の洗礼が交互にやってくる場合もある。

このように、体験には個人差があるのだ。

目安として、発熱などの熱性症状と悪寒（おかん）などの寒性の症状が出て、なおかつ意識が鮮明で体力があったら、それが「火と水の洗礼」であると思ってよいだろう。

◉――火と水の洗礼の意味合い

では、この「火と水の洗礼」には、一体どのような意味合いがあるのだろうか？

キリスト教で、神が最初の人間アダムを何から作ったか覚えているだろうか。それは土であった。形作ることができたからには、粘り気のある土――粘土であろう。

人間が土から作られたとしたら、それを焼き上げて強く固くするのが、火の洗礼なのである。

そして、熱せられるばかりでは人間は死んでしまうので、水の洗礼が必要となる。

事実、指導者なしで勝手に火の洗礼だけ受けてしまうと、命を落とすということが経典に記されている。

もし、期せずしてこのプロセスに入ってしまったなら、早急にクンダリニーの全プロセスの経験者に指導を仰ぐのが望ましい。

「火と水の洗礼」には、ほかにも意味がある。それは、人間の身体から神の身体になるときに、人間時代の悪業（あくごう）を消滅させておかなければならないということだ。

「火と水の洗礼」によって、熱地獄と寒冷地獄を身をもって体験すれば、それまでに積み重ねてきた悪業をなくすことができるのである。

中には、「わたしは悪業なんかなしていない」と言う人もいるだろう。しかし、悪業の判定基準は非常に厳しく、小さな虫を殺すことすら悪なのである。だから、大抵の人は知らず知らずのうちに悪業を積んでいるのだ。

《体験談》火と水の洗礼ののち、熱のクンダリニーが覚醒　（大阪　Hさん　女性　三十代）

クンダリニーの覚醒に先だって、「火と水の洗礼」が交互に起こりました。

仕事中に、空調の整った（つまり温度がほぼ一定の）部屋で、じっと座っていたら、いきなり背

骨が熱くなりほてる、それが数分続いたかと思うと、次は背骨がひんやりとして体中が寒くなる――これが、交互に一時間ほど繰り返されたのです。

そして、その後の「クンダリニー覚醒セミナー」で、ものすごく熱いクンダリニーが、尾てい骨から上昇しました。

《体験談》熱と寒さが交互に――火と水の洗礼後は神通力が付いた！　（東京　Jさん）

ALEPHのイニシエーションを受けて神秘体験をした日の夜、熱が出ました。

それから、熱と寒さが交互に襲ってきたのです。早い人はこの「火と水の洗礼」はすぐに通過してしまうそうですが、わたしの場合はこの状態が一カ月近くも続きました。

「火と水の洗礼」が終わったのちは、修行が進み、天眼通（てんげんつう）（透視能力）などの神通力が身に付いてきました。

◉――洗礼を受けないケースも

この「火と水の洗礼」によって悪業を消滅させるのは、荒行・苦行に属している。

ところが、こうした洗礼を受けずして覚醒へと至るケースも存在している。その一つが、正しい霊的指導者（グル）からイニシエーション（※エネルギー移入）を受けた場合だ。

その場合は、こうした激しいプロセスを経ずして――あるいは、緩やかな形で通過することによって――クンダリニーの覚醒に向かうことができるのである。

ほかに悪業を消滅させる方法としては、ザンゲがある。ザンゲとは、過去の罪過を神仏の前で悔い改めることだ。

また、功徳を積むというのも一つの方法である。物質的な布施（財施）、人に安らぎを与える安心施、正しい教えを広める法施（真理施）の、三つの布施を行なうということだ。

◉――赤いエネルギーの上昇とクンダリニーの覚醒

こうして「火と水の洗礼」を終えると、身体は強健になっている。風邪を引いても、ひどくなる前に治ってしまう。こうなると、次はクンダリニーの覚醒が待っている。

まず、尾てい骨のムーラダーラ・チャクラから、背骨に沿って真っ赤なエネルギーが上昇していき、頭頂のサハスラーラ・チャクラへ入る。

この赤いエネルギー（光）が上昇する前には、背骨を中心として、もぞもぞとするのを感じたり、痛みを感じたりするだろう。

その後、赤いエネルギーが上昇していくときには、熱が上昇しているように感じられるだろう（※霊性が発達していないと、赤い光を見ることはできない）。

それから会陰（※性器と肛門の間）からサハスラーラ・チャクラへ向かってスシュムナーという気道が通じ、その中をクンダリニーが上がっていく。

クンダリニーは霊眼では黄金色に見える。しかし、霊眼が発達していない人には、ただ快感が走ることしか確認できないだろう。

そしてこのクンダリニーが、スヴァディスターナ・チャクラ（性器）、マニプーラ・チャクラ（へそ）、アナハタ・チャクラ（胸）、ヴィシュッダ・チャクラ（喉）を貫き、霊的覚醒が起こるのである。

◉――覚醒の仕方は千差万別

クンダリニーが覚醒するときの体験は、人それぞれである。

ある人は、強烈な熱エネルギーが背中を伝って上昇するのを感じるだろうし、ある人は、それとともに、ヴィジュアル的にエネルギーが螺旋を描いて上昇していくのを見たりする。あるい

は、それほどの劇的な体験のないままに、覚醒していることさえある。
いつ、どこで、どのように覚醒するかは千差万別だ。

《体験談》巨大なエネルギーが尾てい骨から頭頂へ　（名古屋　Mさん　女性　三十代）

入会して二日目のことです。道場でシャヴァ・アーサナ（※全身をリラックスさせる体位法。二八ページ参照）をしていたところ、尾てい骨が熱くて熱くて寝ていられなくなりました。これが、クンダリニー覚醒に関連した初めての体験です。

そしてその後、はっきりとした覚醒の体験が起こったのですが、それは、ひどい頭痛のため家で寝込んでいたときのことでした。

このとき、自分の体より大きなエネルギーが、尾てい骨から頭頂まで何度も突き抜けていきました。頭がい骨がメキメキ音を立てて、「ドーン！」という爆発音とともに頭頂を抜けていく――あまりにも激しい体験で、どうなることかと思ったほどです。

《体験談》暖かい玉のようなものが背中を上昇　（京都　Mさん　女性　三十代）

わたしがクンダリニーの覚醒を経験したのは、出家者の方からアーサナをいくつか教えていただいた三日後でした。

自宅でそれらを一通りやっていたのですが、コブラのポーズを取っているときに、暖かい玉のようなものが、尾てい骨から頭頂へと背骨に沿って駆け上がっていき、気分がとても爽快になったのを覚えています。

非常にハイテンションになり、木々に触れたりするだけで、その木々の持つパワーなどを感じたり、何か対象物を見つめると、その対象物に入っているデータがわかったり、といったことが起こるようになりました。

《体験談》小さな震えが、やがて大きな振動へ　（札幌　Sさん　男性　二十代）

セミナーから帰った日の夜、わたしはシャヴァ・アーサナを取って休んでいました。

しばらくすると、体全体がスーッと軽くなるような不思議な感覚が、小さな波のように押し寄せてきました。

「これは一体何だろう!?」と思っていると、小さな震えが下半身から上半身へとやってきて、どんどん大きくなっていきました。そして、ついには、腰の辺りから上半身にかけて、体が浮き上がる

ようなダイナミックな振動になったのです。
この振動はなかなか収まらず、まさにグルがわたしにエンパワーメントをしてくださっているのだと思いました。
これによって、わたしのクンダリニーは覚醒したのでした。

◉——進化過程で訪れる不安定状態

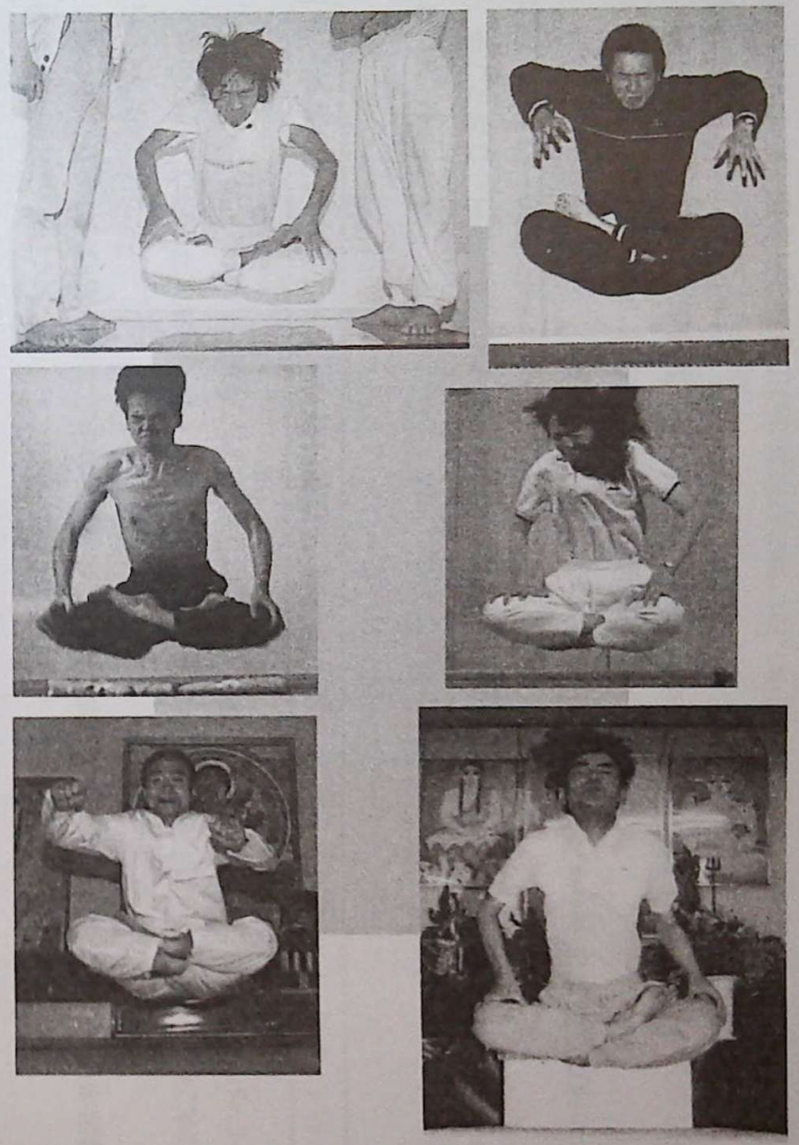
ところで、クンダリニーがチャクラを貫いていくときには、人は魔境（まきょう）に入りやすい。それは、異次元のエネルギーを受け始めるので、精神のコントロールが利かなくなってしまうからである。
この時期は、いろいろな欲望にも負けやすい状態になっているので、注意が必要だ。
また、クンダリニーは生命エネルギーでもあるため、それをロスすることは、精神的・肉体的に大きな打撃になってしまう。
クンダリニー覚醒後は禁欲に徹しなくてはならないといわれているのは、これらの理由からである。

◉——覚醒の証——ダルドリー・シッディ

クンダリニーが覚醒すると、強烈なエネルギーが上昇することは先程述べたが、それに伴ってダルドリー・シッディが起こる。
ダルドリー・シッディというのは、古代インドのヨーガ経典『シヴァ・サンヒター』に「戦慄（ふるえ）が起こり、次の段階では蛙のように飛び歩く」と記述されているもので、空中浮揚の前段階といわれ、下から突き上げてくるエネルギーによって体全体が跳ね上がる現象である。最初は小さな振動から始まり、跳ね出すと何十センチも飛び上がることになる。
つまり、逆を言えば、このダルドリー・シッディが起きるということは、既にクンダリニーが覚醒していることの証でもあるのだ。

《体験談》イニシエーションと日々の努力が実った　（Sさん　男性　二十代）

わたしがダルドリー・シッディを経験したのは、道場で修行していたときのことでした。
そのときはちょうどイニシエーションを受けた直後で、エネルギーが強くなっており、プラーナーヤーマ（呼吸法／調気法）で保息をしていると、その強いエネルギーによって身体が後ろに倒れて



ダルドリー・シッディ――太古のヨーガ経典の世界が今に甦る

しまうような状態にありました。

そんな状態でなおも修行を続けていくうちに、目の前がフッと白っぽくなったかと思うと、突然、身体が跳ね始めたのでした。

ところで、このときわたしは修行を始めて間もないころでしたが、それでも貴重な経験ができたのは、ＡＬＥＰＨの道場のヴァイブレーションの良さ、イニシエーションの効果、そして、在宅修行とはいえ、毎日コツコツと地道にテキスト通りの修行をしていたからだと思います。

もちろん、超能力を得ることが最終目的ではありませんが、この突然の体験に、自分が歩んでいる道に確かな手応えを感じることができました。

《体験談》グルへの思念がもたらした体験

（京都　Ｈさん　男性　二十代）

成就者（じょうじゅしゃ）の方との面談後、やる気の出たわたしは、朝方まで道場で修行をしていました。

そのとき、金剛印（こんごういん）を組んで瞑想を始めると、なぜか「ダルドリーが起きる！」という直感がありました。

予感どおり、右半身から全身にかけて震え始めました。しかし、まだエネルギーが足りないと感じたので、グルを観想し、「救済がしたい！救済のためのエネルギーが欲しい！」と思念しました。

するとその後、頭の上が真っ白な世界になりました。その瞬間からダルドリー・シッディが起きたのです。

ダルドリーはしばらくの間続きました。その間は、目をつむって瞑想をしていたので気付きませんでしたが、目を開くと、完全に祭壇の反対側を向いていました。

右回転のダルドリーで、二回転半ほどしたのち蓮華座を解きましたが、その日は、瞑想をするたびにダルドリーを起こすことができました。

修行が終わってからは、汗が吹き出て背中が熱く、冬にもかかわらず、道場を出てもとても暖かかったです。

《体験談》プラーナーヤーマ中に跳ね出した

（Tさん　男性　二十代）

ダルドリー・シッディが起きるようになったのは、修行を始めてから七カ月後のことでした。

そのころ、わたしは、イニシエーションを受ける準備のために集中的に道場に通って修行を行なっていました。

それは、前日に、深夜の修行にもかかわらず、意識が鮮明で全く眠気を感じない状態を経験し、自分のことながらビックリしていた矢先の体験でした。

いったん帰宅して身体を休めてから、再び道場でプラーナーヤーマを始めたところ、身体に揺れを感じ、前方に押し出されるように跳ね始めたのでした。

ちなみに、そのときは心の状態も変化していて、いつもに比べて妙に軽くなっていた気がします。

その日以来、ダルドリーは頻繁に経験できるようになりました。

《体験談》セミナー中の行法で体験

（Uさん　女性　二十代）

修行を始めて二カ月目に参加したセミナーで、三時間の行法に挑戦しているときのことでした。

意外なことに、突然身体が天井に向かってピョンピョンと跳ね出したのです。動きを止めようにも止められず、結局、最後まで跳ね続けていました。

その直後、家で座法を組んで修行をしているときにも再び経験し、これがダルドリー・シッディであることがわかりました。

ダルドリーは写真で見たことはありましたが、まさか修行を始めて二カ月しか経っていない自分に起こるなんて、想像もしていなかっただけに、驚きと同時にうれしさが込み上げてきました。

自分のなしてきた修行の成果を振り返りつつ、これからも、解脱・悟りに向かって邁進していきたいと思います。

《体験談》グルを観想すればいつでも起きるようになった（横浜　Hさん　女性　三十代）

入会して、十カ月ぐらい経ったときのことです。

正悟師（※マハームドラーの成就者の呼称）のセミナーに参加した何日か後、家でガージャ・カラニー（※胃を洗浄する浄化法のこと）をすると、体が振動してきたので、そこで蓮華座を組んだらダルドリー・シッディが起きました。

それ以降は、調子が良いときにグルを観想すれば、いつでも起きるようになりました。

《体験談》修行中に突然体がフワリと持ち上がった（Kさん　出家者）

いつかは忘れてしまいましたが、修行中に、前に座っている人の体が突然フワッと持ち上がったのを見て「すごいな！」と思っていたら、そのあと、自分もフワッと持ち上がったことがありました。

いつもは、救済を意識したときやグルを強く観想したとき、立位礼拝（※行法の一つ）のとき、ヴァヤヴィヤのときなどに起きます。

《体験談》極限のクンバカでダルドリー・シッディが起きた（Pさん　出家者）

一九九三年の「六ヨーガ（※修行法の一つ）」の伝授がなされたセミナーで、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマをやっていました。

そのセミナーでは、正悟師や師（※クンダリニー・ヨーガの成就者の呼称）の方が修行監督をしてくださっていて、ずいぶん激励していただきましたし。そのおかげだと思うのですが、本当に極限でクンバカ（保息）をしてみたら、意識を失うくらいのときに体が激しく振動し出したのです。

師の方に尋ねてみたら「ダルドリー・シッディですよ」と言われ、わたしもクンダリニーが覚醒していたんだと思い、うれしくなりました。

◉――そしてクンダリニーの本覚醒へ

その後、本格的なクンダリニーの覚醒が一気に始まる。「火と水の洗礼」後に起こるクンダリニーの覚醒と違う点は、この覚醒が高次元のチャクラの活性化を誘発するということである。

つまり、わたしたちが普通に生活しているのは三次元の世界であり、最初のクンダリニーの覚醒で活性化するのは四次元のチャクラ、そして今回活性化するのは、それ以上の次元のチャクラ

というわけだ。

この状態に至るなら、あらゆる超人的な能力を身に付ける確約ができたようなものである。

二回目のクンダリニーは、大きく強いエネルギーを持っているので、各チャクラを貫くときは爆発音とともに、白銀色の閃光がきらめく。そして、背骨を揺さぶる。この背骨は、縦揺れ→横揺れ→回転へと揺れ方が変わっていく。

また、丹田に快感が走る。これは性交時よりも強い快感である。それとともに心地良いゾクッとした感覚が、尾てい骨から頭頂に向かって次第に広がっていく。

定に入ると、展開される素晴らしい驚異の光景に完全に圧倒されて、いつしか私の感覚器官は魅入られたようになったまま、苦楽の入りまじった荒々しい世界から超感覚的次元に転送され、そこで私は、無限定の実在が拡がる果てしない大洋の中に身をひたし、言葉につくせぬ歓喜の光の波に洗われていた。

その体験は実に不可思議なもので、私はそのみごとな光景が荘厳のきわみに達した時、全身が総毛立つのを感じた。

そのような時、私というか、私の中の見えざる知覚の中心は、光り輝く意識の海の強いひき潮の力で、肉体の中の安全な停泊地から引き離されていった。

そして、地球上のあらゆるものを心服せしめる強大かつ広大な存在に没入し、私は、あらゆる束縛や限界に煩わされることもなく、果てしなく拡がる荘重にして崇高な驚くべき超物質的宇宙と融合していた。

ただそうした最中でも、私にはまだ肉体的自我がかすかに残っていて、内なる世界に開けた荘厳な光景を、ふるえながらじっと見つめていた。たしかに、自分が目覚めたクンダリニーを保持する私は自分の到達した壮麗な境地に狂喜した。たいへんな特別に恵まれた人間であることに、何の疑いの余地もなかった。

（ゴーピ・クリシュナ著『クンダリニー』）

《体験談》書籍に載っているとおり二度の覚醒を経験

（Tさん　出家者）

一回目のクンダリニーの覚醒のときは、何をしていたか覚えていないのですが、尾てい骨からエネルギーが上昇していきました。

二回目のときは、蓮華座を組んでカルマ（※業。ここでは特に悪業のこと）を落とす修行をしていたら、ちょうど教えにあるとおりに、縦揺れ、横揺れ、回転という感じで背骨の揺れ方が変化していきました。非常に気持ちが良かったのを覚えています。

コラム

クンダリニーにまつわる秘儀、ここに公開！

本文で、「火と水の洗礼」ののちにクンダリニーの覚醒があり、その後に、本格的なクンダリニーの覚醒があることを述べた。

この「クンダリニー覚醒は二回ある」という教えは、一般には秘儀とされている。

このほかにも、クンダリニーにまつわる秘儀はたくさん存在しているのだが、そのいくつかをここに公開することにしよう。

○秘儀1――クンダリニー覚醒には二つのパターンがある

まず、クンダリニーの覚醒の仕方には、〝密教的パターン〟と〝ヨーガ的パターン〟の二つがあるということだ。

密教的パターンの場合は、クンダリニーは体全体を左回りに上昇し、最終的にはサハスラーラ・チャクラに到達する。

対して、ヨーガ的パターンの場合は、ムーラダーラ・チャクラから一直線に頭頂へと上昇する。しかしこの際も、実際には、小さな左回りの回転があるのである。

○秘儀2――クンダリニーには三つのステージがある

クンダリニーには三つのステージがあって、第一段階は熱、第二段階はヴァイブレーション、第三段階は光である。この三つのクンダリニーを覚醒させなければならない。

覚醒するとどうなるかというと、まず下位のチャクラが開き出す、そしてナーダ音が聞こえる、そして光が見える――この三つの現象が起きてくる。

肉体的には、体が異常に熱い、そして背骨がいろんな形で揺れる、そして光がパッパッパッとするのである。

体験談

眼前で光が明滅――光のクンダリニーの体験

一九八九年三月の成就修行に入ったときのことです。この成就修行の最後の段階は、真っ暗闇の瞑想ルームで二十四時間瞑想を行なうというものでした。

暗闇の中でひたすら瞑想をすることは、わたしにとっては大変なストレスでした。まだ出家生活も浅く、潜在意識の浄化も進んでいなかったため、すぐに雑念が出てきたり、眠ってしまったりで、瞑想に集中するのが大変でした。

しかし、それでも修行は確実に進んでいき、いくつかの体験があったのち、眼前に蛍光灯の光のようなものが、パカパカとフラッシュするような感じで付いたり消えたりする体験をしました。

後で成就者の方にその体験のことを尋ねると、光のクンダリニーが上がったということでした。

この体験をしたのち、ワーク（※奉仕活動）に戻りました。それまでは、体調を崩した後で、疲れやすかったことがあったのですが、非常にエネルギッシュになり、意識も覚醒してしまい、全く睡眠がいらなくなってしまいました。

また、意識がすっきりしているので、雑念もなく集中力もあり、心身が軽やかで、ワークがとてもはかどりました。

（Sさん　出家者）

○秘儀3――風元素のステージになると、冷たいクンダリニーが上がる

秘儀2のプロセスののち、修行を続けていくと、「ツァンダリー」と呼ばれる〝エネルギーの循環〟が、体内で生じ始める。

その段階になると、わたしたちの身体を構成している五大元素（地・水・火・風・空）が次々と崩壊していく。

そして、風元素が崩壊するステージになると、わたしたちは、若干ブルーの入ったグリーンの帯を霊視するとともに、心地よくて冷たいクンダリニーの上昇を経験することになるのである。

体験談　元素の崩壊の経験ののち、冷たいエネルギーが上昇

道場に通い出した直後から、瞑想中に体が押し付けられたように横に広がる感覚を体験しました。そのときは何かはわかりませんでしたが、後で確認して、地元素の崩壊の表現と似ているなと思いました。

その少しあとに、眠っている意識とはっきり起きている意識が、同時に存在しているのを認識できました。これは、水元素の崩壊のように思いました。

さらにその一カ月くらいあとに、エネルギーが充実していって、体のあちらこちらで火花を感じました。その後、背骨を冷た

いエネルギーが上がるのを感じたのです。

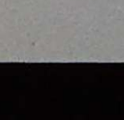
出家してからすぐの長期修行中、立位礼拝をしているときにも、下から冷気が身体全体に満ちてきて、ひたひたになった経験があります。

そのときは、ナーディーの詰まりに白銀のエネルギーがピタッとくっ付いて、それを溶かしていくような感覚があって、たまらなく楽しく、ずっと礼拝を続けたかったのを覚えています。

（Mさん　出家者）

体験談　入会後四カ月目で風のクンダリニーまでを経験

（メッターヴェッジャ師　成就者）



わたしがクンダリニーの覚醒を体験したのは、入会して四カ月目の一九八七年十二月、多摩の山奥で行なわれた第一回「狂気の集中修行」のときです。

「悟るか狂うか」という触れ込みで、四時間連続のトライバンダ・ムドラー（※行法の一つ）や三時間のビバリータ・カラニー（※行法の一つ）等、厳しい行法ばかりでした。特に上級コースでは、真冬なのに男性は上半身裸、ムドラー（※霊的覚醒の技法）等のときは窓を全開にするというもので、限界のクンバカを休むことなく続けなければ寒くてたまりませんでした。

その十日間のセミナーに参加して、三日目くらいに熱のクンダリニーが覚醒しました。トライバンダ・ムドラーで限界のクンバカをしているときに、最初は首の後ろがものすごく熱くなりました。ヘアードライヤーの熱風を当てられたように感じたの

で、思わず後ろを振り返ったのですが、もちろんそんなことはありません。

それで、その行法を続けていると、今度は尾てい骨から直径四、五センチの熱の柱のようなものが上昇して、首の熱感のある部分とつながりました。それが何度も上下して大変気持ちがいいのです。また、頭頂に下から強い圧迫感があり、メキメキというような感じで盛り上がってきました。クンダリニーのエネルギーによって肉髻ができたのです。

そのころは、行法中だけでなく二、三分の電話の最中にもクンダリニーが十数回上下して、ポカポカして気持ちが良かったことを覚えています。

さらに、その三、四日後、行法の合間にシャヴァ・アーサナをしているときに、今度は尾てい骨から直径一センチくらいの冷たい心地良いものが、シュルシュルという感じで背骨の中央を頭頂へ向かって上がってきました。何かと思って師の方に聞いたら、風のクンダリニーとのことでした。

その後もトライバンダ・ムドラーのクンバカのときに、何度も風のクンダリニーが上下して、ゾクゾクッとするような至福感が続きました。

実は入会する前に、他の密教系の教団で六年間くらい修行していましたが、そこでは何の神秘体験もありませんでした。しかし、ALEPHに入会してわずか四カ月目で、風のクンダリニーまで覚醒することができましたので、確信が持てました。

クンダリニーが覚醒してからは、疲れ知らずで、すごくエネルギッシュになり、知

性も向上したように思います。また、直感も鋭くなり、ちょっと思念しただけで、いろんな願望がかなうようになりました。

自分の希望する関連病院に転勤できて修行環境が整ったり、難しい神経内科の認定医試験にあまり勉強せずに合格できたのも、クンダリニーの覚醒によってチャクラが開発されたおかげだと思っています。

○秘儀4――クンダリニーのスタート地点は尾てい骨だけではない

クンダリニーのスタート地点は、これまで尾てい骨としてきたが、このほかにも、会陰や、スヴァディスターナ・チャクラから上昇することもある。

これは、その人の煩悩の特性によって変わってくる。

例えば、邪悪心（嫌悪）が強ければ、ムーラダーラ・チャクラからスタートし、疑念が強ければ、スヴァディスターナ・チャクラからスタートするのである。

【体験談】

修行やエンパワーメントでクンダリニーが覚醒！

真理に巡り合い、念願のクンダリニーが覚醒！

（大阪　Nさん　男性　四十代）

わたしはＡＬＥＰＨに入会する前に、精神世界の本をいろいろ読んでいました。そのとき、人間を超えた状態になるためには、「クンダリニー」というものをまず覚醒させなければならない、という記述を目にしたのです。

それからは、クンダリニーを覚醒させたくて、いろいろな瞑想や修行法を独学でやってみたのですが、いくら頑張っても覚醒しないどころか、精神的にどんどん不安定になり、悪夢にうなされたりして、最悪の状態に陥ってしまいました。

そんなとき、書店で『生死を超える』という本を手にしました。そこに書かれている体験談には、「解脱者のシャクティーパット（※最高峰のイニシエーションの一つ）を受けて、安全で速やかにクンダリニーが覚醒しました」という体験談がたくさん載っていて、とてもびっくりしました。

わたしもぜひ受けてみたいという思いが高まり、ＡＬＥＰＨの大阪道場を訪ね、思い切って入会しました。

待ちに待ったシャクティーパットの日が来ました。解脱者の方がわたしの額からエネルギーを移入し、「クンダリニーが頭まで上がった」と言ってくださいました。その他、自分の状態をいろいろ言い当てられました。とても安心感があり、「すべてお見通しなんだなあ」と感動しました。

シャクティーパットが終わって帰宅してからふと気付くと、背骨にお湯が入っているような感覚がありました。そしてそれが背骨に沿って時々上がったり下がったりしているのです。これがクンダリニーかと思い、とても興奮しました。

その日以来、自分の状態が一変しました。ＡＬＥＰＨの道場に行っただけで、身体がカーッと熱くなるようになりました。また、プラーナヤーマをしていると、ちょうど額の裏側辺りでフラッシュのような白い光がパッと光りました。初めて霊的な光を見て、心が躍りました。

クンダリニーの覚醒には熱・ヴァイブレーション・光という三段階のプロセスがあり、ここでの光の霊視は、フラッシュのような光がパッパッとするのだそうです。わたしの体験はまさにピッタリだったので、これで念願のクンダリニー覚醒をわたしも達成できたのだと確信が持てて、とてもうれしくなりました。

その後も、いろいろな体験をしました。

クンダリニーに関して言えば、最初はチョロチョロという感じだったエネルギーも、今では柱のように太くなり、圧力を伴ったものとして背骨を上がるようになりました。また、クンダリニーが

激しく噴き上げるように上昇すると、ダルドリー・シッディも起こるようになりました。
必ずや解脱・悟りを果たし、その恩恵を多くの人たちに還元できるように、これからも修行に邁進していきたいと思っています。

インドでも覚醒しなかったクンダリニーが、ついに！

（横浜　Nさん　男性　四十代）

わたしは、もともと精神世界やヨーガに興味があり、クンダリニーを覚醒させたかったこともあって、二十歳のころに、修行の本場インドへと旅立ちました。
向かったのはヨーガ発祥の地、北インドのリシケシでした。リシケシには多くのアシュラム（道場）が点在しています。
最初に滞在したアシュラムでびっくりしたのは、俗化してしまったせいで、聖なるヴァイブレーションというのをほとんど感じられなかったことです。
次に行ったアシュラムは、若干のヨーガのセオリーは残っていたものの、ここでも聖なるヴァイブレーションを感じることはできませんでした。
結局、約半年間インドに滞在しましたが、クンダリニーも覚醒できず、求めているものが得られないままに、落胆して帰国しました。

帰国後、本屋に行って精神世界に関する本を探していたとき、ある雑誌にＡＬＥＰＨの寄稿記事が載っているのを見ました。その途端、直感的に「ここに行ってみたい」という強い思いがわき出てきたのです。そこで入会金と会費を握り締め、ＡＬＥＰＨの道場へと向かいました。
道場に入った瞬間、ここはわたしが求めていた空間だなと感じました――空間が聖なるヴァイブレーションなのです。わたしは、インドのみならず仏教国を回り、聖地といわれる土地を巡礼していたのですが、そこと比べても明らかに精妙で、微細で、ホーリーな空間でした。
ＡＬＥＰＨに入会後、イニシエーションを受けるためのコースに参加させていただきました。そこで受けたコースは、まさにわたしが求めていたヨーガであり、精神的なものでした。
コースでのムドラーの修行中、限界でクンバカしていると、いきなりダルドリー・シッディが起きました。そして、心が止まり、肉体的感覚も薄れ、尾てい骨から小さな蛇のようなものがスッと駆け上ったのです。クンダリニーの覚醒でした。
また、その後、一生懸命功徳を積んでいたとき、ベッドで横になっていると、地震のような感じでクンダリニーが駆け上り、びっくりしたということもありました。そして、クンダリニーが上昇して頭頂に達し、教義にあるとおりの肉髻ができたのです。
巷ではクンダリニーの覚醒は大変難しいし、また、危険であるという通念がありますが、ＡＬＥＰＨの先達はもう経験済みなので、事細かな指導やアドバイスをしてもらえ、大変安心できます。

ヨーガの著名な先生方でも困難な覚醒が、わたしの身に！（福岡　Hさん　女性　三十代）

わたしは、ヨーガ系の団体でインストラクターとして働く傍ら、もっと瞑想やチャクラのことを深く知りたい、そして、できるならクンダリニーを覚醒させたいと思っていました。

そこで、その仕事を辞めることになったのを機に、東京に一カ月ほど滞在し、ヨーガのイベントに参加するなどして、いい先生を見つけてその方に師事しようと考えました。既にＡＬＥＰＨとは出合っていましたが、その縁はその縁として、予定どおり東京に行くことにしました。

お目当てとしていたヨーガのイベントは、国内最大級のもので、会場には、全国から著名な先生方がたくさん集まってきていました。

わたしがまず会いに行ったのは、Ｗ先生でした。この方は、ヨーガの本やＤＶＤをたくさん出している、この世界では非常に有名な方です。

そして、「Ｗ先生ですね！」と声を掛け、ちょっと唐突だったのですが、「Ｗ先生って、クンダリニー覚醒しているんですか？」と聞いてみました。そうしたら、「いや、してない」との答え。「あ、そうなんですか。じゃあ、目指しているんですか？」と聞くと、「いや、目指してない」と、もう即答でした。かなり期待していただけに、とてもがっかりしました。

そのほかにも何人かに当たってみたのですが、「クンダリニーを覚醒できるのは、何億人に一人

だ」という主張をされたり、目をそらされて「クンダリニーの覚醒は難しいよね」と言われたりしました。結局、いい先生を見つけることができず、地元に戻ってくることになったのです。

もはや、ＡＬＥＰＨに望みを託すしかありません。最初は疑念がありながらも、教えを少しずつ実践していきました。

そうしたところ、心身や環境に目覚ましい変化が現われてきたのです。そして、ついにわたしにもダルドリー・シッディが起こり、念願のクンダリニーが覚醒したのでした。

こんなにも短期間で覚醒させることができ、ＡＬＥＰＨの修行のすごさを実感しました。

ムドラーと夢でのエンパワーメントで、クンダリニーが覚醒！（Ｌさん　出家者）

わたしは会員時代、道場から離れた所に住んでいたので、年に数回しか道場に通うことができませんでした。それでも、入会して八カ月ぐらいのときに、クンダリニーの覚醒が起こったのです。

ポイントは、エンパワーメントを受けたこと、ムドラーを毎日行なったことだったと思います。

マハーバンダ・ムドラー（※行法の一つ）が好きで、毎日一時間以上やるようにしていたのですが、やがて尾てい骨からエネルギーが上昇するようになりました。

その後、小乗のツァンダリーのイニシエーションを受ける機会に恵まれ、その瞑想にも励みまし

た。そんなときに、夢の中で、グルからエンパワーメントを受けたのです。

そのときは、アストラル・トリップをしたように鮮明な意識状態でした。目の前にグルが現われて、手を眉間のところに近づけて、エネルギーを入れてくださいました。

スヴァディスターナ・チャクラからエネルギーが上昇しました。エネルギーは前面を通って上昇し、それは強い痛みを伴うほどでした。そのときにアドバイスも頂き、肉体に戻りました。

すると、やはり身体の前面が、喉まで強くしびれているのです。「ああ、今のは本当だったんだ……」と思い、驚きました。

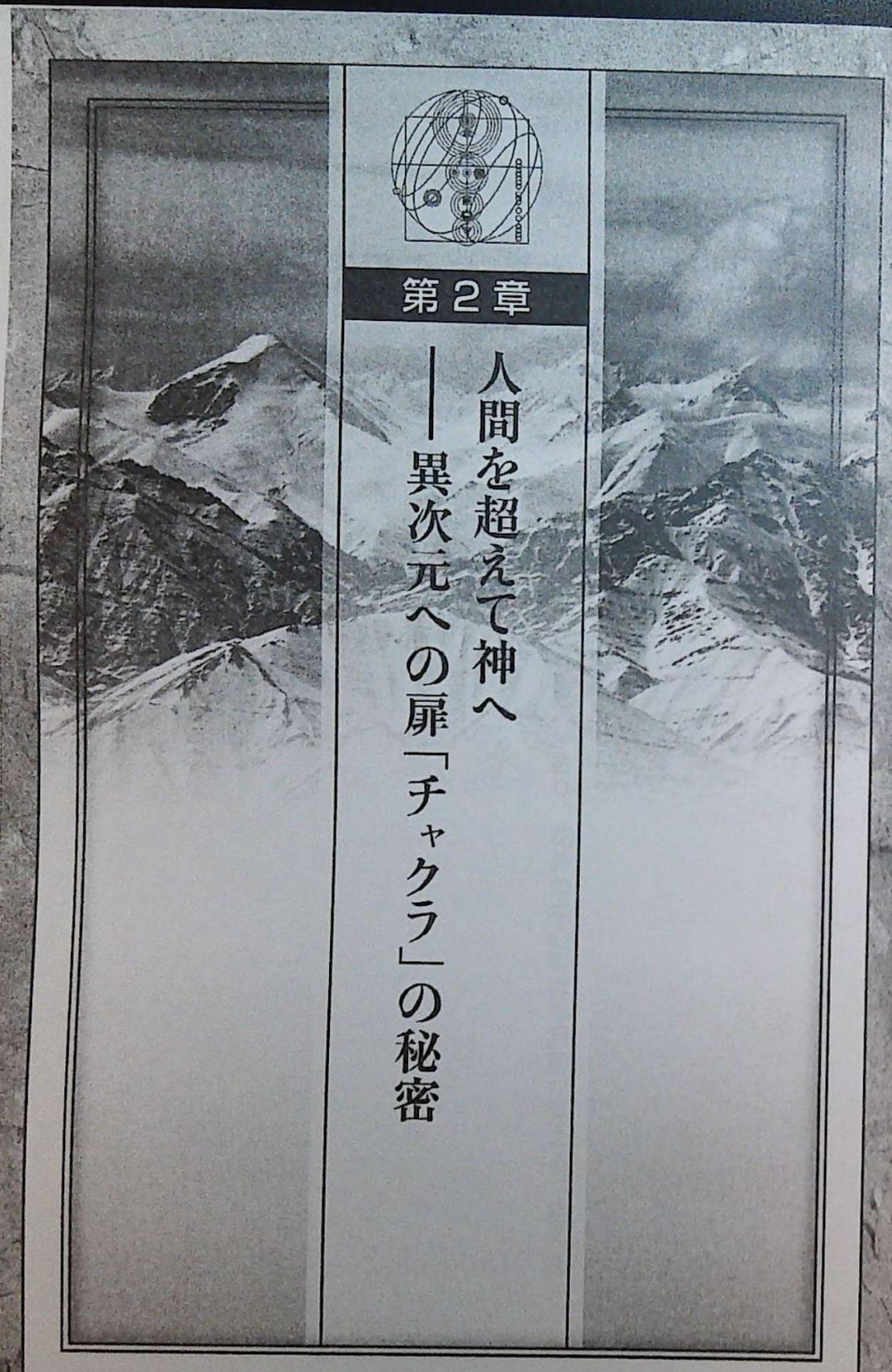
その後、ビラ配りのバクティをしているとき、エネルギーが尾てい骨から頭頂まで上昇し続けました。その気持ちの良さは、何にも替え難いものでした。

睡眠についても、二時間ぐらいウトウトとすると、とてもスカーッと冴えた状態になり、自分がスーパーマンになったかと思いました。

また、クンダリニーが覚醒すると、「肉髻」といって、頭が盛り上がってきます。話には聞いていましたが、わたしにもなんと肉髻ができたのでした。ダルドリーも毎日のように起きたりしました。

その後、アストラル・トリップが連続で起きたり、何とも気持ちのいい状態です。

朝の通勤時も、エネルギーがサワサワと上昇して、クンダリニーの覚醒がもたらす恩恵の素晴らしさに、感謝の気持ちでいっぱいでした。



第2章

人間を超えて神へ
――異次元への扉「チャクラ」の秘密